

一生勉強、一生青春
—家庭学習と親のスタンスを考える—

東京都東村山市立東村山第7中学校
PTA臨時総会、講演会資料

2013年8月30日(金)
14時30分~16時00分
東村山第7中学校音楽室
開倫塾
塾長 林 明夫
(<http://www.kairin.co.jp>)

Q 1 : 本日の講演の目的は何ですか。

A : 「家庭学習と親のスタンス」という観点から、効果の上がる学習の仕方をご一緒に考えたいと思います。

Q 2 : 好きなことばはありますか。自己紹介代わりに紹介してください。

A : あります。自己紹介を兼ねて私の好きなことばをいくつか紹介します。

(1) 「練習で泣いて、試合で笑え」

* 足利市立山辺中学校 柔道部部长 椎名弘先生

(2) 「ブルドッグ魂」(食いついたら離すな)

* 足利市立山辺中学校 2・3年クラス担任 岡田忠治先生

(3) 「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心なものごとに取り組もう)

* 栃木県立足利高校マラソン大会の合言葉

(4) 「いつも最悪の場合を予想して行動しよう」

* 慶應義塾大学法学部部長 峯村光郎先生(法哲学、労働法)

(5) 「注意一秒、けが一生」

* 慶應義塾大学法学部教授 宮沢浩一先生(刑法、刑事政策、犯罪学、被害者学)

(6) 「会った人は皆友だち」

* 京都、一燈園 石川洋先生

(7) 「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」

* 京都、一燈園 石川洋先生

(8) 「よいことをして忘れる」

* 京都、一燈園 石川洋先生

(9) 「持続する志(こころざし)」

* ノーベル賞作家 大江健三郎先生

(10) 「目には遠いが心は近い」

* インドのことわざ

(11) 「初心忘るべからず」

* 世阿弥

(12) 「教育ある人とは(一生)学び続ける人」

* 経営学の大家 ドラッカー先生

(13) 「自然と精神」

* ベイトソン

(14) 「歴史における個人の役割」

* ロシアの革命家、プレハーノフ

Q 3 : 何のために学ぶのですか。学力を身に付ける目的は何だと考えますか。

A : 2つの目的があると私は考えます。

(1) 「人生の成功」のため。具体的に言うと「多様な選択肢を持つ人生を送る」ため。最終的には「よく生きる」ため

(2) 「正常に機能する社会の形成に貢献する」ため、「持続可能な社会をつくる」ため

Q 4 : 現代の社会はどのような社会だとお考えですか。そこで求められる基本的能力とはどのようなもの
だとお考えですか。

A : 現代の社会には次の3つの特徴があると考えます。

(1) 「知識基盤型社会」(知識が基盤になっている社会)

*そこで求められるのは「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(2) 「グローバル化社会」

*そこで求められるのは「多様な集団で交流する能力」

(3) 「課題山積社会」(様々な課題が山のように積まれた社会)

*そこで求められるのは「自律的に行動する能力」

Q 5 : この3つの基本的能力の前提となる能力は何ですか。

A : 2つあります。

(1) 「学習の仕方」を身に付けていること

*「学習」という漢字は、「学」と「習」に分けられます。「学び方」と「習い方」を身に付けて
いることです

(2) 「読書による思慮深さ」を身に付けていること

*「読書」には、「新聞」を読むことも含まれると私は考えます

「新聞」を読むと「自分で考える力」、「批判的思考能力」が身に付きます

Q 6 : どのようにすれば学力が身に付くのですか。学習の成果が上がるのですか。

A : 私は、学習の成果を考える場合には次の「かけ算」が大切と考えます。

(1) 「本人の自覚」×「学習の方法」×「学習時間」=学習の成果

(2)かけ算ですから、3つのうちの1つが限りなく小さかったりゼロだったりすると、他の2つがよ
くても学習効果はあまり上がらないと考えます

Q 7 : 「本人の自覚」とは何ですか。

A : (1) 「自分のあり方をわかまえること。自己自身の置かれて
いる一定の状況を媒介として、そこにおける自己の位置・
能力・価値・義務・使命などを知ること」(広辞苑)

(2)中学生なら①「勉強不足を自覚する」、②「中学生であ
ることを自覚する」、③「受験生であることを自覚する」
ということかもしれませんが、次のようなことも考えられ
ます

(3)①何のために〇〇高校に進学するのか、自分の力で考え
る

②高校に進学して何をするのかを考える

③高校を卒業してどうするのかを考える

④社会に出て何をするのかを考える

⑤どのような生き方をしたいのかを考える

— 御参考 —

(1)高校野球の選手はなぜあそこ
まで熱心に練習をするのか。野
球が好きということもありますが、
母校の名誉のために甲子園
に出場して優勝するという「高
い志」のためと私は考えます

(2)サッカーをはじめとする多く
のスポーツ、ブラスバンドをは
じめとする多くの文化活動にも
同じことが言えます

(3)何のためにがんばるのか、そ
の目的、「高い志」、「使命感」が
熱心さ・粘り強さを生みます

(4) 参考になるのは内村鑑三先生著「後世への最大遺物(こうせいへのさいだいいぶつ)」岩波文庫。
人は自分が死んだ後の世に何が遺(のこ)せるのか、人として遺せる最も大きなものは何かについての講演速記録

- | | | |
|---------|----------------|-----------------|
| ①お金 | ②仕事(事業) | ③書いたものなど(著作、作品) |
| ④教え(教育) | ⑤生き方…「よく生きる」こと | |

(5) 「自覚」をすればするほど、また、「自覚」が深ければ深いほど、「学習の方法」を工夫し、「学習時間」も長くなりますので、「学習の成果」は大きくなると私は考えます

(6) ただし、「自覚」をするようにと言っても、「自覚」をするのは本人です。家庭や学校、社会でできるのは「自覚を促す」ことまでです。創意工夫を凝らし、自覚を促したいと思います

Q 8 : 2 番目に「学習の仕方」とあります。効果の上がる「学習の仕方」はありますか。

A : はい、たくさんあります。私は、「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の 3 つの段階に分けて、1 つ 1 つの段階ごとにどのようなやり方をすれば学力が上がるかを考えて「学習の 3 段階理論」と名付け、まとめてみました。これを紹介させていただきます。

「学習の 3 段階理論」を正確に身に付け 自分自身の学力を自分の力で大幅に向上させよう

塾長 林 明夫

Q : 「学習の 3 段階理論」とは何ですか。

A : (林明夫 : 以下省略) 学習の仕方がよくわからなくて困っている人があまりにも多いので、学力向上のための効果の上がる学習方法、勉強の仕方として、私が 30 年以上かけてまとめ上げた考え方です。

「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の 3 つの段階に分け、それぞれの勉強の仕方を工夫しながら、学力を確実に上げる勉強方法です。

Q : 学力は本当に上がるのですか。

A : 本当かどうかは、この方法で勉強に取り組んだ方に聞いてみてください。学力が向上したという答えが多くの方から返ってくると思います。

Q : そうですか。そこまで言うのなら、試しにやってみようかな。では、お聞きします。第 1 段階の「理解」とは何ですか。

A : (1) よく質問してくださいました。ありがとうございます。「理解」とは、学習した内容が「うん、なるほど」と「よくわかること」、「腑(ふ)に落ちること」です。

(2) この「理解」には、学校や塾などの先生の授業を聴いてよくわかる場合と、教科書や参考書などを自分で勉強してよくわかる場合の 2 つがあります。

(3) 学校や塾などで先生から教えていただいて「理解」するときのポイントは、「手を机の上に置き、先生の目を見て、先生の教えてくださることを熱心に聴くこと」です。「先生の指示に従って、授業に熱心に参加すること」も大切です。「授業中に大切と思われることはノートにどんどん

ん取り続けること」も、とても大切です。

(4)授業中に先生がいくら熱心に教えてくださっても、「欠席」や「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「おしゃべり」、「ケータイ」をしたり「ボーッととして他のことを考えている」のでは「理解の妨げ」になりますから、避けましょうね。

(5)自分で学校や塾の教科書・教材などを勉強して「理解」するときのポイントは、学校や塾の先生から授業を受けるときと同じ熱心さで、一行一行、一語一語、ゆっくりとかみしめながら、「ああ、これはこういうことなのか」とよくわかるまで、何回も繰り返して文章を読むことです。

(6)意味のわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や各科目の「用語集」、学年別の「参考書」で意味を調べ、調べたことは科目別の「意味調べノート」に必ず記入しておくことです。

(7)「予習は何のためにするのか」と、考えたことがありますか。私は、「予習はよくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」と考えます。教科書や問題集を自分でよく読み、書かれていることがどのような意味なのかをまずは自分の力で考える。問題を自分の力でノートに解いてみる。自分で考えてどうしてもわからないところがあれば、辞書や科目別の用語集、学年別の参考書で調べる。その結果はノートに書いておく。それでもわからないときは、友達に聞いたり、学校の図書室や近くの図書館で調べたりする。インターネットでも調べてみる。このようにして「何がわからないかをはっきりさせてから学校や塾の先生の授業に臨むことが、予習をする意味だ」と私は考えます。この「予習の仕方」は、よく身に付けると高校や大学、大学院で、また、社会に出てから役に立ちますよ。

以上が、第1段階の「理解」のポイントです。

Q：第2段階の「定着」とは何ですか。

A：「定着」とは、「うん、なるほど」とよく「理解」したことを、「スミからスミまで」正確に「身に付ける」ことです。この「定着」のポイントは3つあります。

(1)1つ目のポイントは、学校や塾の授業でよく「理解」した教科書やテキスト、授業のときに取ったノート、各科目別の意味調べノートなどを大きな声を出して読むこと、つまり「音読」することです。音読で大切なのは、「書いてあることが自由自在にスラスラと読めるようになるまで何回も、何十回も、何百回も読む練習をすること」です。これを「音読練習」と言います。「音読練習」を繰り返し行う間に、書いてあることをスミからスミまで全部覚えてしまうことも大事です。

この「音読練習」だけでも、学力は相当向上します。「音読練習」をして一度身に付けたことの多くは、一生忘れません。

(2)2つ目のポイントは、「よく書けないような語句や図は、すべての科目とも手が覚えてしまうくらいまで書く」、「書き取り練習」を徹底的に行うことです。「書き取り練習」が大事なものは、国語の漢字や英語のスペリング(綴り字)だけではありません。数学の公式や社会の地名・人名・出来事・憲法の条文、理科の図や公式、音楽の楽譜など図表も含め教科書などに出ていることすべてを正確に書けるまでにすることが大事です。その学年で学んだことは、その学年の間にすべて正確に書けるまで練習に練習を重ねましょう。

この語句の「書き取り練習」は、一生に一回、今このときにだけ行うものだと考え、手が痛くなるくらいまで行ってください。このようにして体を使って身に付けたものの多くは、一生忘れません。「書き取り練習」をしない限り、いつになっても覚えられない語句は山ほどあります。この「書き取り練習」は、社会に出てからも続けてくださいね。

(3)3 つ目の「定着」のポイントは、「計算・問題練習」をすることです。一度解いた問題を何度も解き直し、なぜそのような正解になるのかが十分に「理解」できたらどうするか。その計算や問題を見た瞬間に正解がパッパッパッと出てくるまで何回も「計算・問題練習」を繰り返すことです。定期テストや模擬試験、本番の入学試験などでは、問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出る問題が多ければ多いほど、初めて解く問題や難しい問題をじっくりと考えながら解くことのできる「時間の余裕、ゆとり」が生まれます。

(4)私は、これらの「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と名付けました。学力が高いと言われる人ほど、一度「理解」した教科書や教材、意味調べノート、授業中のノートなどの内容を「定着のための3大練習」によりスミズミまで正確に身に付け、あらゆるテストで高い点数を取り続けています。「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。「定着のための3大練習」は、「不可能を可能」にします。

以上が、第2段階の「定着」のポイントです。

Q：第3段階の「応用」とは何ですか。

A：(1)「応用」とは、「理解」「定着」したことを用いて「テストでよい点数が取れる」とこと、社会で役に立てることです。

(2)よい点数とは、定期テストでは100点、模擬試験では希望校に合格できる偏差値、入学試験では合格点を意味します。

(3)よい点数を取るためには、過去に出題された問題や予想問題を5年分、同じ問題を5～6回繰り返してやってみることです。

(4)間違えた問題は、すべて「間違いノート」に記録し、なぜ間違えたかを納得のいくまで十分に研究することです。

(5)ただし、学校の定期テストでしたら、十分に「理解」したあと、「定着のための3大練習」を確実にやり、スミからスミまで正確に身に付けるだけで高得点、多くの場合100点満点が取れます。

以上が、第3段階の「応用」のポイントです。是非、本気でやってみてくださいね。

Q9：「理解」、「定着」について参考になる本はありますか。

A：はい、あります。

(1)最も参考になるのは、孔子の教えを説いた「論語」の第一章「学而(がくじ)」です

(2)御参考までに、史跡足利学校刊の「論語抄」を紹介します

①子曰わく、し い 学まなびて時ときに之これを習ならう、亦また説よろこばしからずや。

②朋とも有あり遠えん方ぽうより来きたる、亦また楽たのしからずや。

③人ひと知しらずしてい搯きどおらず、亦また君ま子くんならずや。

<通釈>

①孔子が言った。学問をして、その学んだところを、復習できる機会を逃さずに、何回も何回も、くり返して復習すると、学んだところのものは、自分の真の知識として完全に消化され、体得される。これはまた、なんと喜ばしいことではないか。②このようにして、知識が豊かになれば、

道を同じくする友達が、遠い所からまでもやって来て、学問について話しあうようになる。これはまた、なんと楽しいことではないか。③しかし、いくら勉強しても、この自分を認めてくれない人が世間にはいるもの。そうした人がいたとしても、怨まない。それでこそ、学徳ともにすぐれた君子ではないか。

P1 ~ 2

<通釈>は私の足利高校時代の恩師、3年間、漢文の授業をしてくださった須永美知夫先生によるものです。「理解」と「定着」がよくわかります。

Q10：それでは、3番目の「学習時間」について教えてください。

A：(1)1日は24時間しかありませんので、学習の成果を上げる上で大切なのは「学習時間の長さを確保すること」と「集中力を身に付けること」の2つです。いくら長い時間机に向かってもダラダラ学習では高い学習効果は期待できません。逆に、短時間であっても集中力を身に付けていれば高い学習効果が生まれることもあります。ただ、中学生として学習すべき内容は山ほどありますので、集中力をうまくコントロールしながら、合計して長時間学習する工夫をすることが大切です

(2)「学習時間の長さを確保する」ときに最も大切なことは、やらないことを決めること、または、時間制限を設けることです

①例えば「ケータイ」「スマホ」「ゲーム」「PC」。学習時間中は音が出ないようにして、別の部屋に置いておくことを提案します。それらに触れる時間は、1日最高30分～1時間にすることも提案します

②「悩む時間」。いくら悩んでも学力は身に付きません。「悩む時間」は1日30分までと決め、悩む暇があったら別のことに、できれば学習にその時間を用いることをお勧めします

③「ケンカ」。ケンカをすると、学習が何日も手に付かないこともあります。ケンカをしたら早めに仲直りすること。原因は日常的なことが多いと思いますので、一番簡単な仲直りの方法は、自分が悪かったと思ったら素直な心で「あやまる」ことです。次に、「おはようございます」、「いただきます」、「ごちそうさまでした」、「行ってまいります」、「ただ今帰りました」、「こんにちは」、「おやすみなさい」などと「大きな声で元気に、また、ていねいにあいさつをすること」です

④虫歯や持病などがある場合は、歯科医や医師の診断・治療を早め早めに受けることをお勧めします

⑤「早寝・早起き、朝ごはん」(食育)も大切です

⑥よく考えれば大人同志ですべき話題は、中学生の前では口にしないこともお願いしたいと思います

Q11：保護者として家庭教育として、中学生に教えておいたほうがよいことはありますか。

A：いくつかあります。

(1)食事のつくり方

*食材の求め方、調理の仕方、後片付けの仕方

(2)掃除の仕方、ゴミの出し方

(3)できれば「5S」も

①整理…不要なものを捨てる



②清掃(せいそう)

③整頓(せいとん)…ものは決まったところに置く

④清潔①～③を保つ

⑤躰(しつけ)…人に言われなくても行う

(4)できれば別の意味の「躰(しつけ)」も

①「美しい立居振舞(たちいふるまい)」

②「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」

*「です、ます」調で話すことができるようにする

(5)新聞を家庭で購読して読む

(6)図書館、公園、美術館、文化会館、博物館など社会教育施設の活用の仕方を教える

(7)いろいろな職業や社会的活動をしている人に引き合わせる。また、いろいろな職場、活動の場を紹介して見聞を広げさせる

(8)御自分の体験や経験を折に触れて語ってあげてください

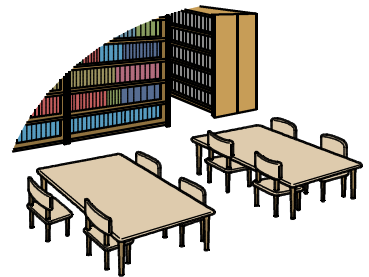
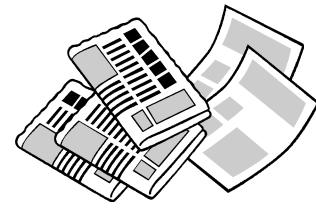
(9)今からでも家庭行事を大切に

〈例〉通知表を貰ってくる日には「ごちそう」を。「よかった会」、「残念会」を

(10)子どもは褒(ほ)めること。よくやっていることを評価してあげること

(11)働くとは何か。働く定義・目的を自分のことばで伝える

(12)伝えたいことは伝える



Q12: 最後に一言どうぞ。

A : (1)「健康第一」(身体の健康、心の健康)

(2)「いつまでも若々しく生きる」

(3)「一生勉強、一生青春」

以上

御清聴を感謝申し上げます。

御質問、御意見、御批判などがあれば、御自由に御発言くださいますようお願い申し上げます。

